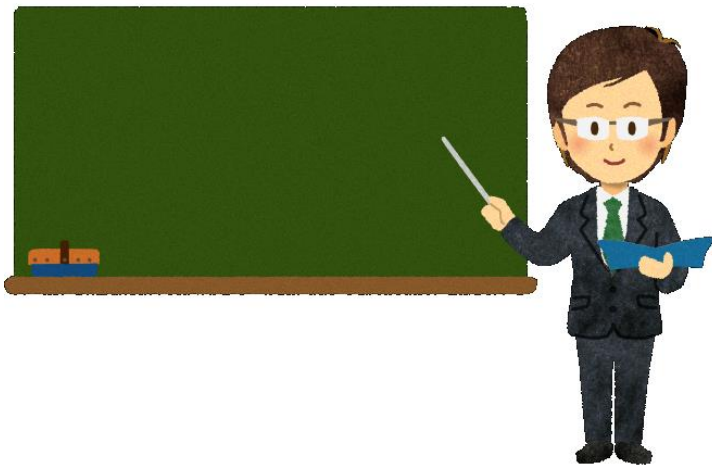


2大学で共催するFDセミナーの 開発と将来展望

～「授業について考えるランチセミナー」の企画・運営を通して～



徳島大学 高等教育研究センター
吉田 博、飯尾 健、塩川奈々美

高知大学 学び創造センター
杉田郁代、高畑貴志

発表の流れ

1. はじめに

- 授業について考えるランチセミナー
- セミナーが生まれた背景

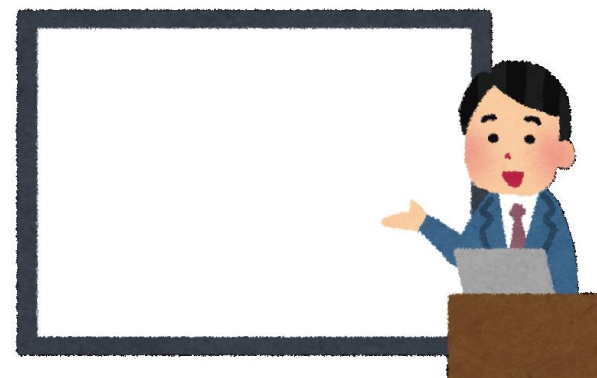
2. セミナーの参加者傾向

- 共催による参加者数の変化
- 1人あたりの参加回数
- 各回の参加状況
- 参加回数属性別特徴

3. セミナー参加者アンケート

- セミナーの満足度・有益度
- セミナーに参加して良かった点

4. まとめと今後に向けて



授業について考えるランチセミナー

授業での実践例や教員・学生の生の声を紹介したり、参加者が感じている疑問や質問に答えたり、一緒に考えることで、**授業づくりのヒントになるティップスを参加者全員で共有する。**

日時： 第2,第3木曜日 12:05~12:50

方法： Zoomを活用したオンライン

対象： SPOD加盟校の教職員・大学院生・学部学生



✓**気軽に参加**でき、**充実した情報**を提供する!!

✓**徳島大学**と**高知大学**が**共催**で実施!!(2022年度より)



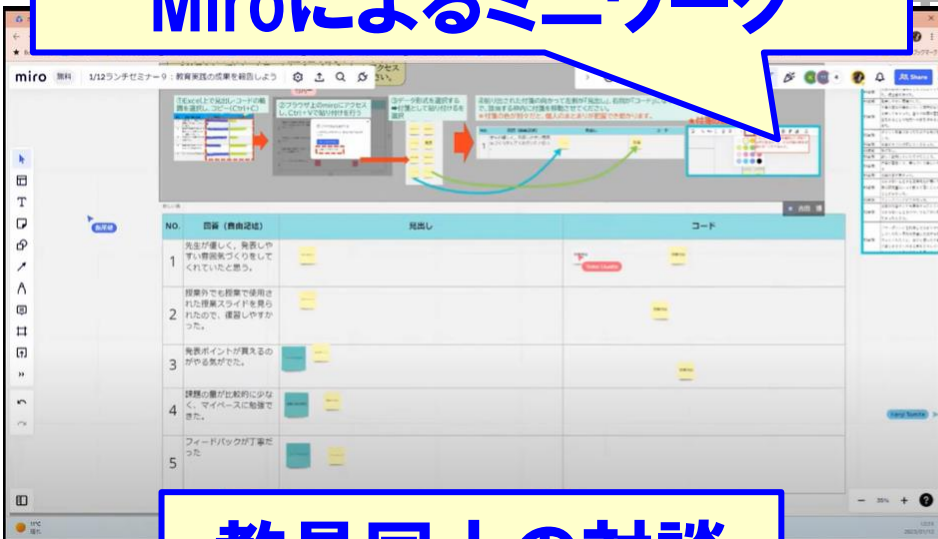
※2024年度から香川大学も共催する予定である

2022年度のランチセミナー

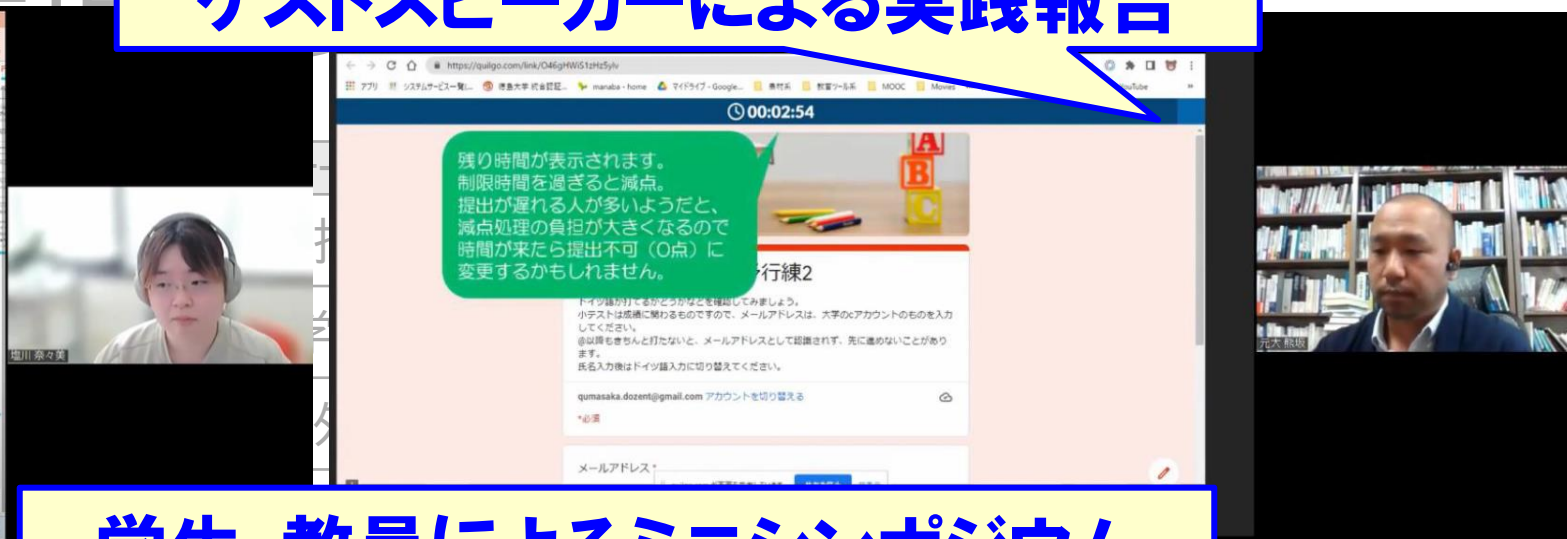
日程	テーマ	参加者数
4月14日(木)・21日(木)	双方向的な授業を行う①	44名・36名
5月12日(木)・19日(木)	多様な学習評価①	30名・34名
6月9日(木)・16日(木)	学生に授業外学習を促す	60名・59名
7月14日(木)・21日(木)	ユニバーサルデザインな視点での授業づくり	45名・34名
9月8日(木)・15日(木)	教育実践の成果を報告しよう①	40名・31名
10月13日(木)・20日(木)	双方向的な授業を行う②	38名・32名
11月10日(木)・17日(木)	多様な学習評価②	38名・40名
12月8日(木)・15日(木)	オンライン授業の工夫あれこれ	38名・28名
1月12日(木)・19日(木)	教育実践の成果を報告しよう②	29名・30名
2月9日(木)・16日(木)	学生の多様化と学生支援	35名・32名

全20回実施し、参加者数は延べ**753名!!**

Miroによるミニワーク



ゲストスピーカーによる実践報告



教員同士の対談



学生・教員によるミニシンポジウム

多面的に評価されているとのこと

実践者を交えたディスカッション

実践者の先生 (「教師論」等の授業を担当)
中上 斉 先生 (徳島大学 教職教育)

「教師論」の受講生
桐畑 尚真 さん (徳島大学 理工学部)

自称、普通の学生
吉原 祥 さん (徳島大学 理工学部)

参加者のみなさん (<https://app.one.learnwiz.jp/ja/topic/62083901>)
Learn Wiz one

コメントチェッカー
塩川 奈々美 先生
(司会: 吉田 博)

授業外学習を促す取組
発表しやすい雰囲気づくりはどのようにしていますか？

「予め自分で考えてくる」という宿題。たとえば何を、どんなふうに考えさせますか？

「教師論」の成績評価はどのようにしていますか？

桐畑さんへ
授業の点が進むにつれて、予習への取り組みは変わりましたが、

先生に質問です。
同じ時期に開講されている他の科目の課題の量などに配慮されることはありますか？

ランチセミナーが生まれた背景

◆2020年度、新型コロナウイルス感染症の影響で、**すべてのFDプログラムをオンラインで実施**した。



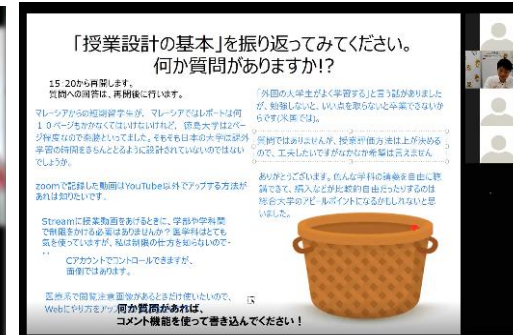
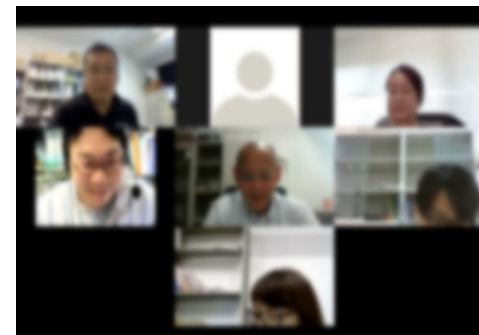
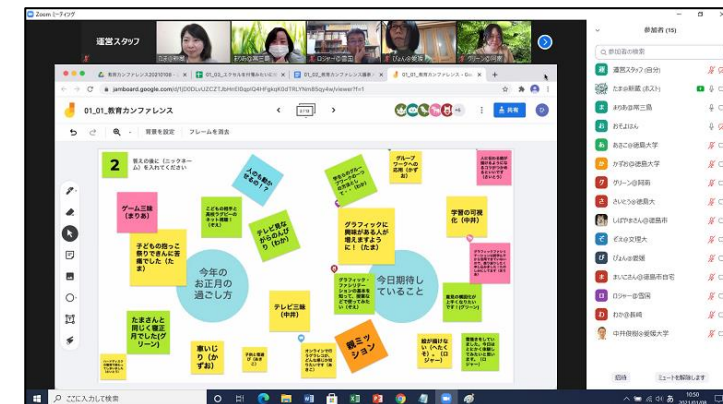
✓すぐ使える90分セミナー

✓授業設計ワークショップ(グループワーク、模擬授業など)

✓大学教育カンファレンスin徳島



- オンラインFDのスキル向上
- オンライン上のアプリの進歩
- 新しいFDの可能性が広がる



FＤのオンライン化による変化

(「すぐ使える90分セミナー」の2019年度と2020年度の比較)

- ◆ **参加者数増加**(147名→274名;10回累計参加者数)
 - これまでFDに参加していない教職員が参加
 - 学外からの参加者が増加
- ◆ 参加者の**質問が増加し、双方向のやり取りが活発**になった
- ◆ 参加者の**満足度はほぼ同じ**(97%→95%;10回累計)
- ◆ 容易に録画できるため、**参加できなかった人への映像提供等のフォローができる**ようになった
(YouTubeの限定公開で映像を提供する)
- ◆ 申込者の約20%は参加しない
- ◆ 他の仕事しながら参加する参加者もいる

オンラインの良さを活かしたFD開発

1. SPOD加盟校全体に配信する

- 会場の手配や参加のための移動が必要なく、どこからでも参加できる

2. アーカイブサイトを作る(動画・資料の提供)

- 録画が容易にでき、後から見返したり、参加できない教職員にも共有できる

3. 気軽に参加できるようにする

- 他の用事(食事や仕事など)をしながら参加できる

4. 実践者・学生の声を届ける

- 学内外のゲストスピーカーや学生の登壇が容易にできる

5. 大学を超えて共同で開発する ※2024年度から香川大学も共催する予定である

- 多様な講師の得意分野を活かし、幅広いテーマで実施できる
- 共催する各大学に事務局を置くことで広報力を高める



発表の目的・内容

徳島大学と高知大学で共同開発した、**2022年度の「授業について考えるランチセミナー**（以下、セミナー）」について、

①**参加者の傾向**（参加回数、職種等を所属機関別に整理）

②**参加者アンケート**（セミナー終了時の満足度やよかった点）

の考察を行うことで、

**セミナーの特徴や活用方法について整理し、
今後のセミナーの企画につなげる。**

共催による参加者数の変化

- ◆ 2022年度の延べ参加者数: 753名
→ 運営スタッフ・講師・登壇者を除く実参加者数: 178名

- ◆ 2021年度(高知大学との共催前)との比較(実人数)

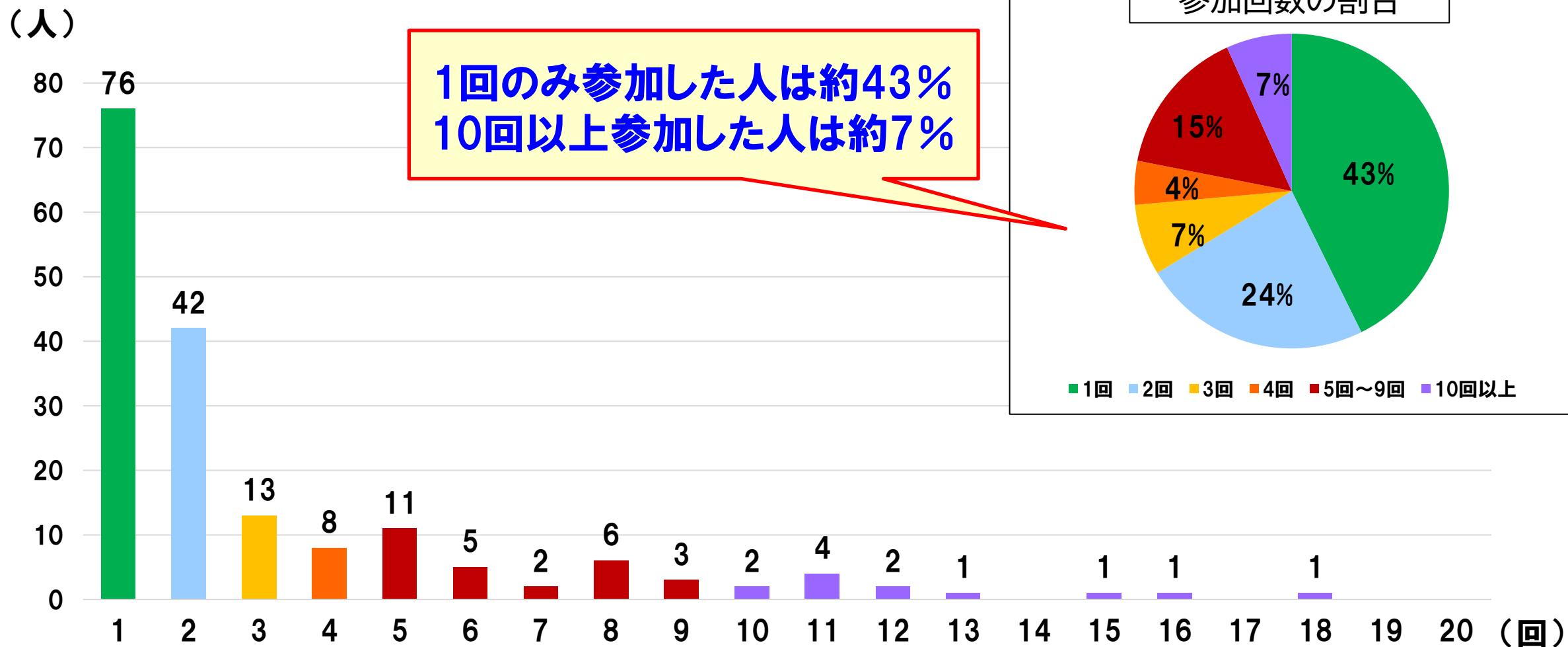
年度	徳島大学	高知大学	その他	全体
2021	102名	7名	39名	148名
2022	107名	43名	28名	178名

高知大学の
参加者が
約6倍に増加

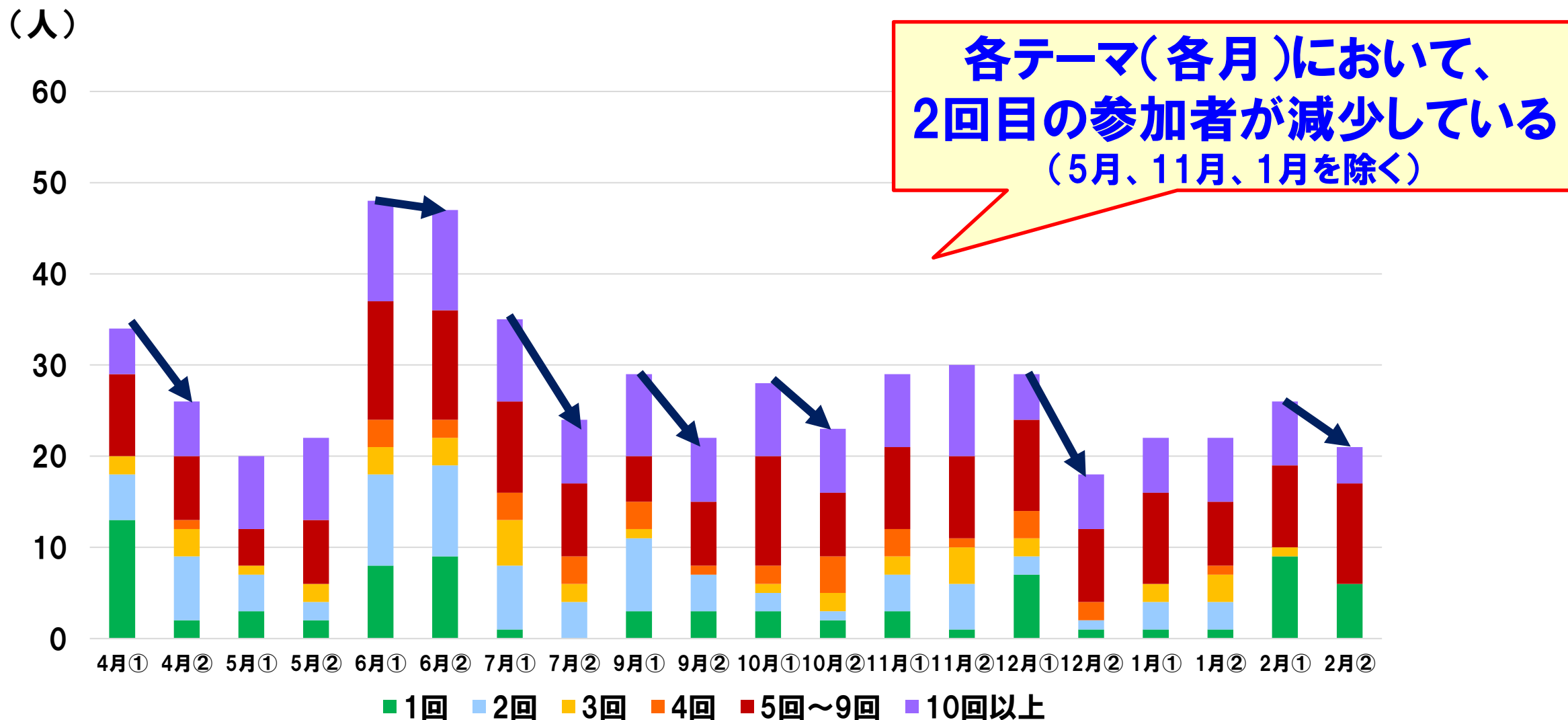
高知大学の年間FD計画の中に盛り込まれたこと、高知大学の担当者が学内への周知を行ったことにより、高知大学の教職員にとって身近なFDとして位置づけられた。

FDを共催する
意義の1つ

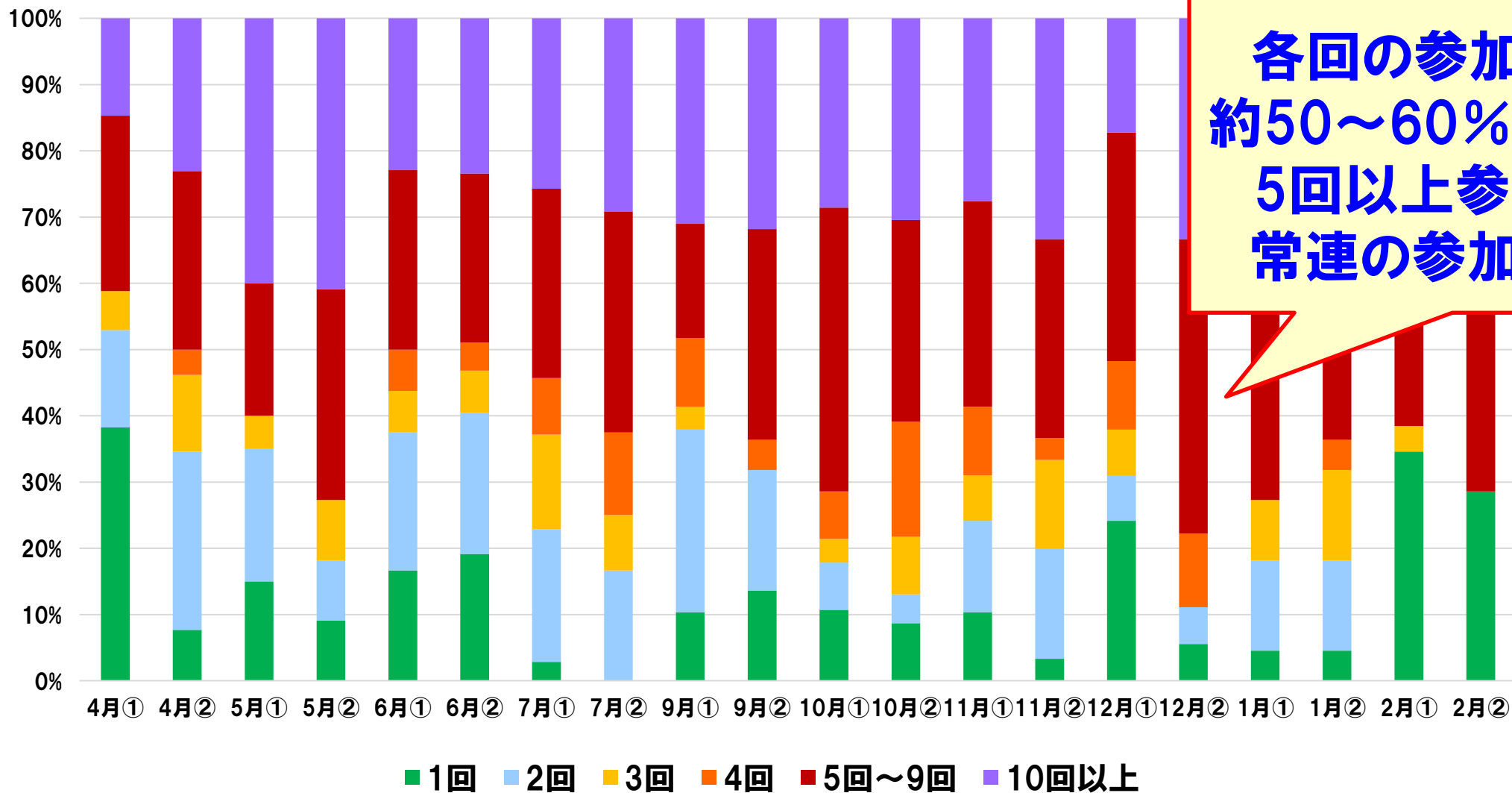
1人当たりの参加回数



各回の参加者数(参加回数別)

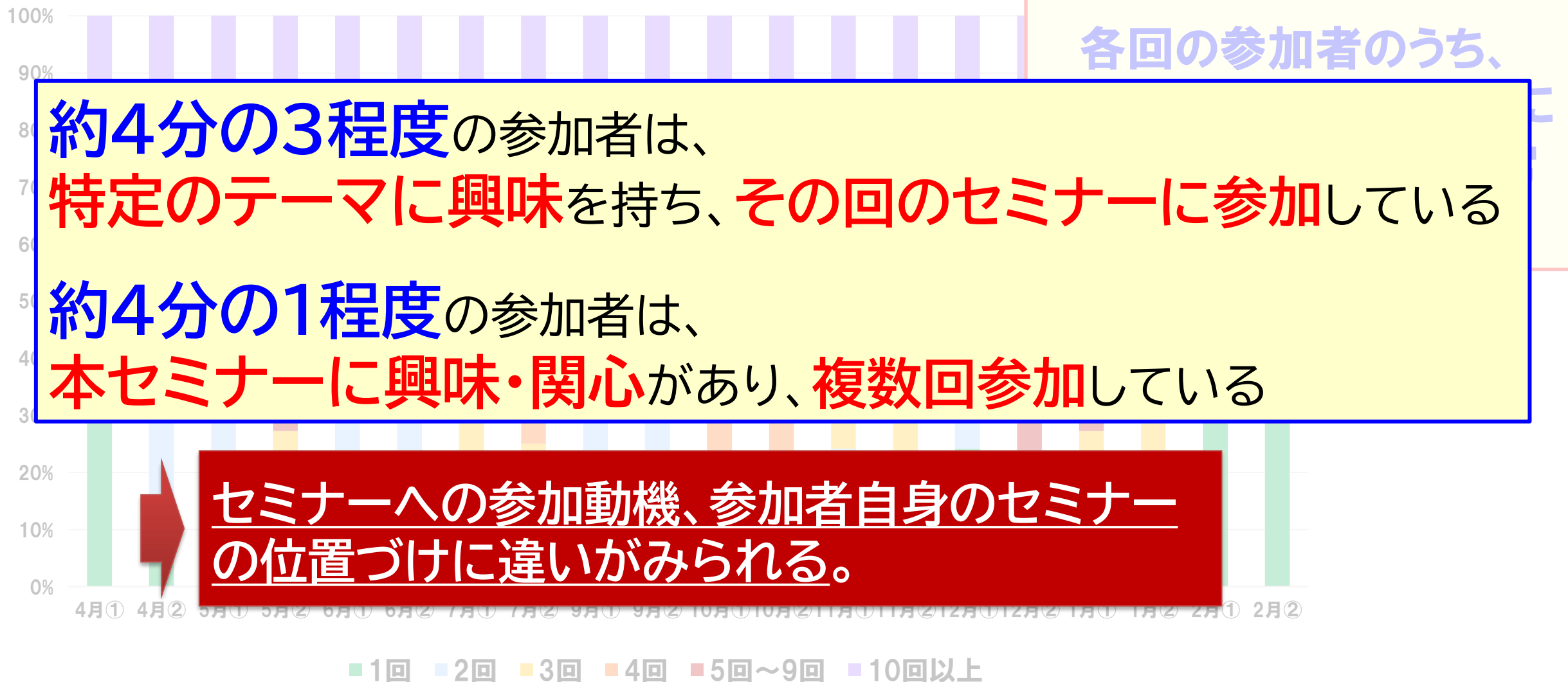


各回の参加者・割合(参加回数別)



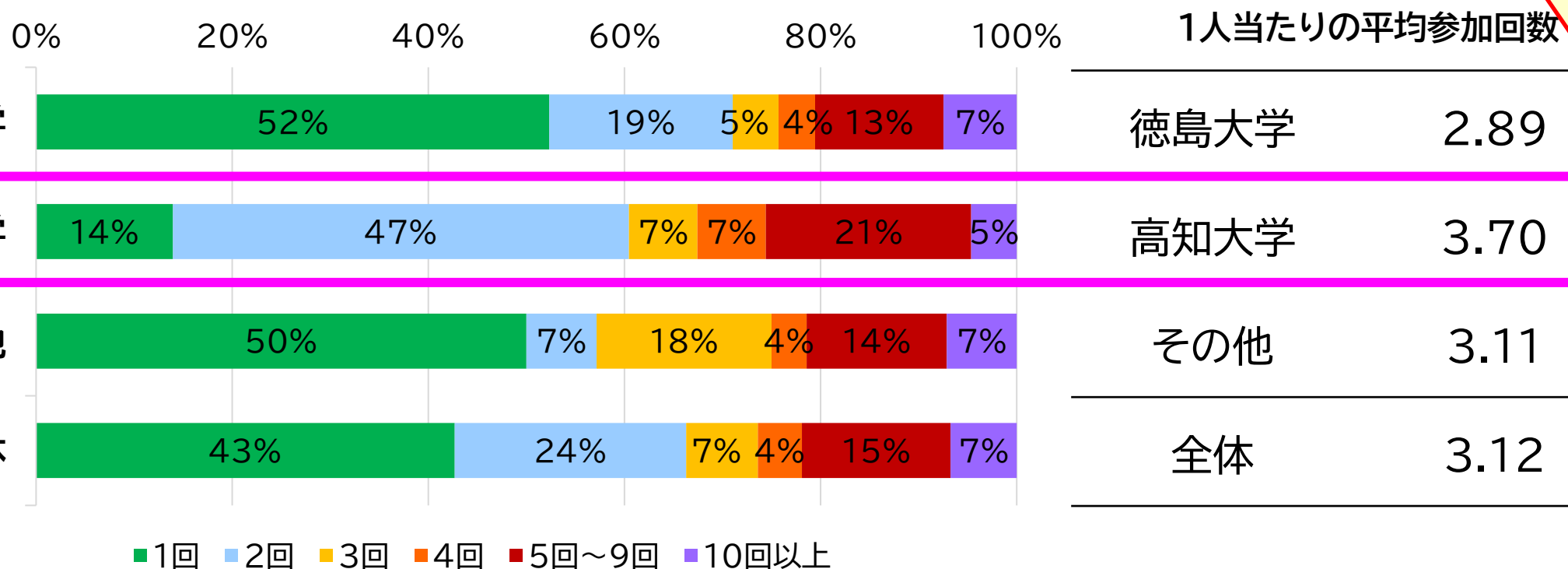
各回の参加者のうち、
約50~60%はセミナーに
5回以上参加している
常連の参加者である。

各回の参加者・割合(参加回数別)



1人当たりの参加回数(所属機関別)

複数回参加している参加者の割合が他と比較して多い



高知大学では、一月の2回のセミナーに連続で参加することで、FDプログラム1回分の参加とみなし、新任教員研修プログラムの1つにカウントしている。

開催する機関における組織的な位置づけが参加動向に影響を与える。

参加者の職種の違い

	教員	職員	学生/大学院生		
徳島大学	82	6	19		
高知大学	41	1	0	1	43
その他	27	1	0	0	28
合計	150	8	19	1	178

参加者のほとんどが教員であり、徳島大学のみ学生が参加している

参加した徳島大学生のうち15名は、大学教育について学習する徳島大学のある教養教育科目の受講生であった。また、このうち13名が「授業時間外学習」をテーマとした月に参加しており、担当教員からも授業でセミナーに関する情報提供がなされていた。

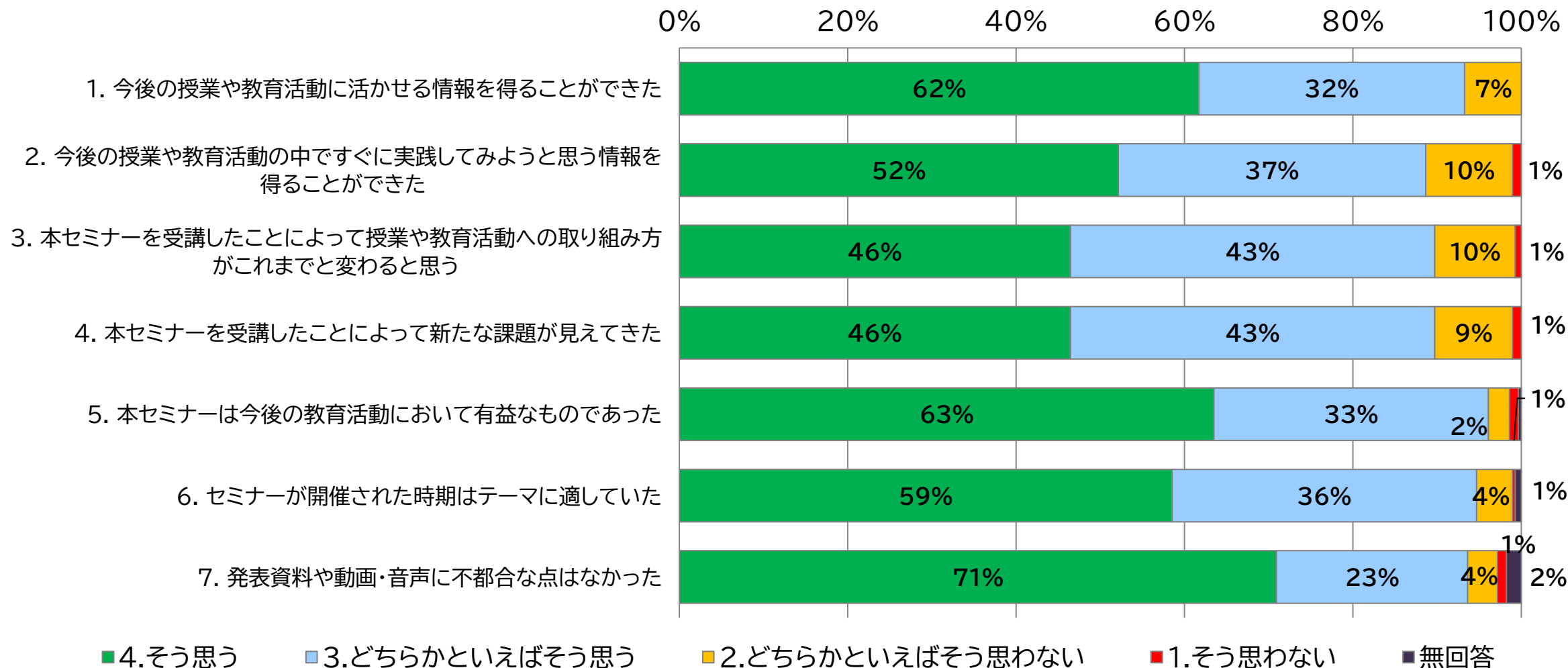
（特殊な事例であると推察するが）

学生の学びの機会としても活用されている。

2022年度参加者アンケート

(セミナー終了直後にwebで実施)

(n=282)



(参考)カークパトリックの4段階評価モデル

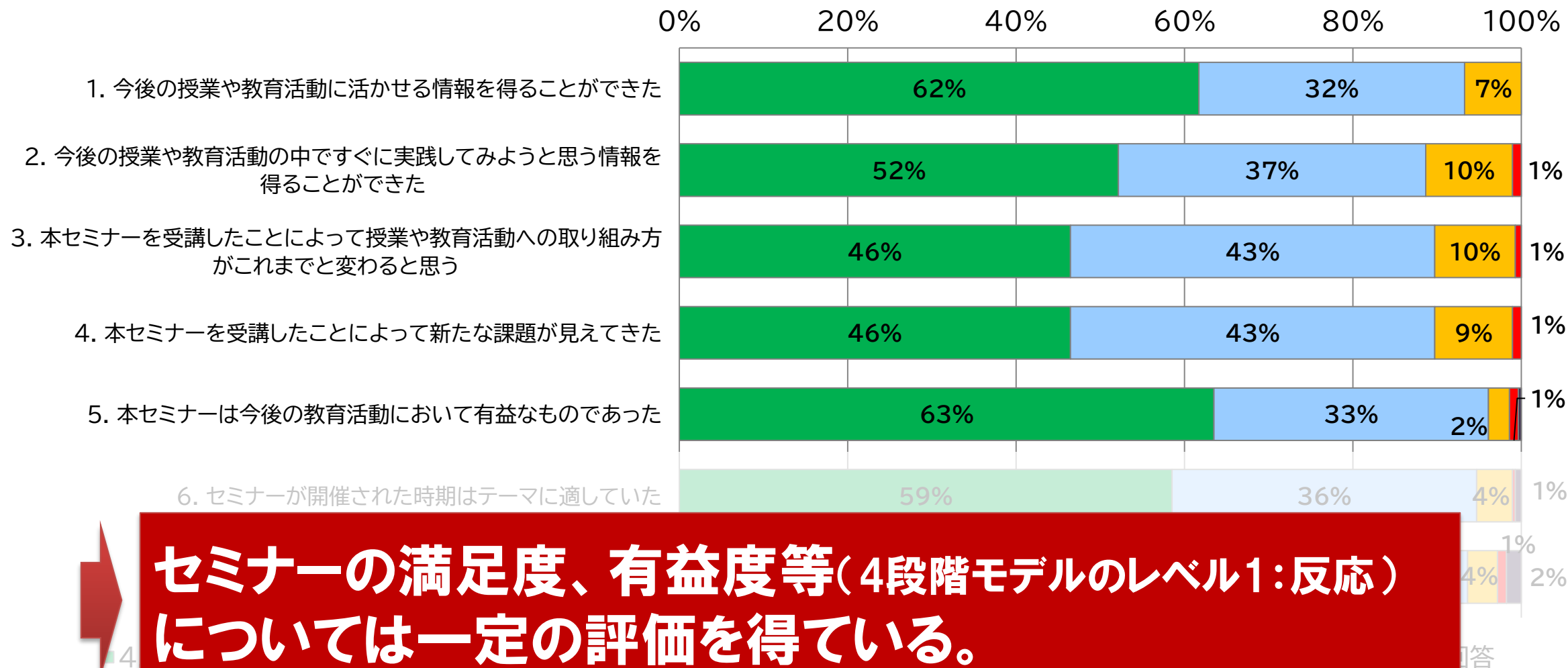
レベル	評価項目	データ収集ツール
1.反応 Reaction	参加者は教育に対してどのような反応を示したか？	・受講者アンケート
2.学習 Learning	どのような知識とスキルが身についたか？	・事後テスト ・パフォーマンステスト
3.行動 Behavior	参加者はどのように知識とスキルを仕事に生かしたか？	・フォローアップ調査 ・上長アンケート
4.結果 Result	教育は組織と組織の目標にどのような効果をもたらしたか？	・効果測定チェックリスト ・ROI指標

※ROI:Return on Investment(投資対効果)

2022年度参加者アンケート

(セミナー終了直後にwebで実施)

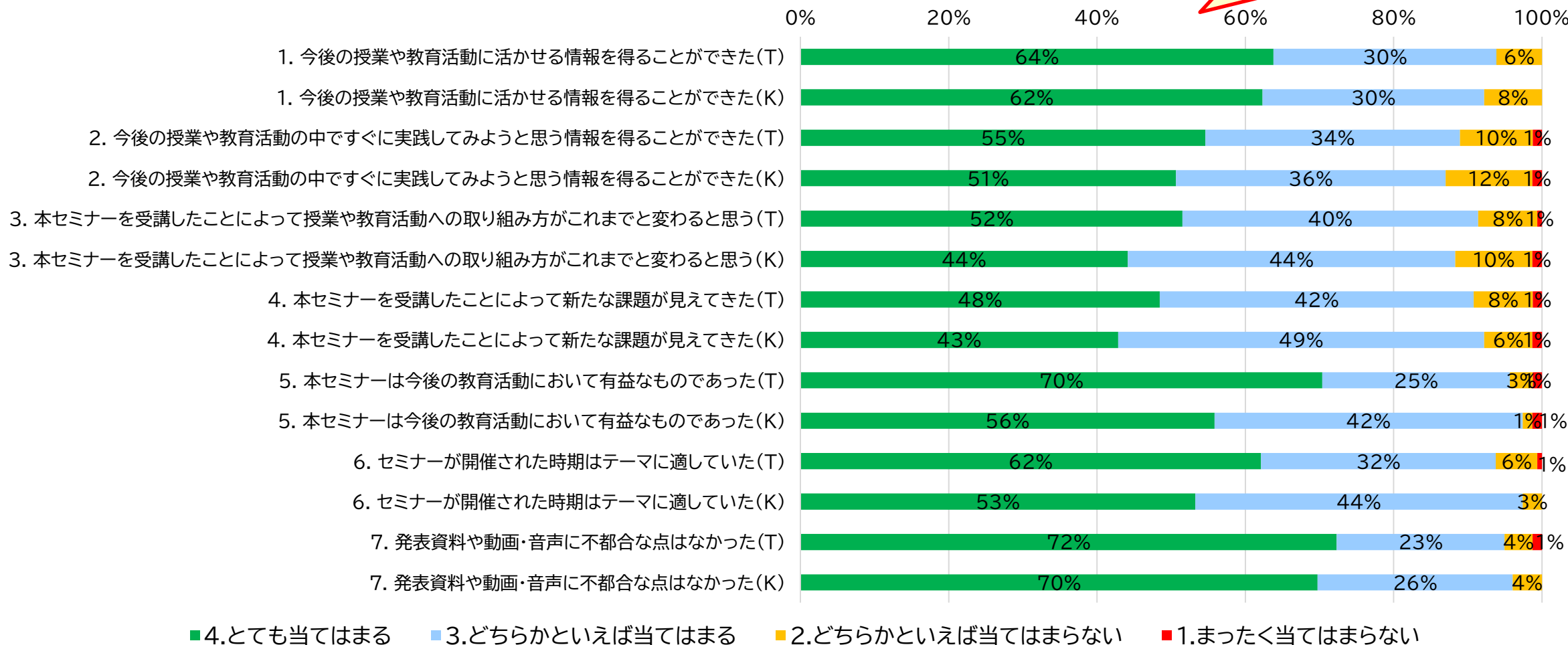
(n=282)



2022年度参加者アンケート

(徳島大学と高知大学の参加者の回答比較)

徳島大学と高知大学の参加者間ではほとんど差はない。



※T:徳島大学(n=163)、K:高知大学(n=77)

セミナーに参加して良かった点

自由記述設問「参加して良かった点・有益であった点などがあればお書きください」の記述109件の内容を項目別に分類する。

項目	記述数
テーマに関する理解の促進・新しい気づき	48
具体例・実践例・操作方・ツールが知れた	19
ゲスト(教員・学生)の声が直接聞けた	17
自身の取組を振り返った・考えた	11
リラックスしてセミナーに参加できた	2
参加者の声を拾ってセミナーが進められた	1
感想・その他(設問の意図と合わない意見)	11
合計	109

セミナーに参加して良かった点

自由記述設問「参加して良かった点があればお書きください」の記述109件について、項目ごとに分類する。

徳島大学と高知大学の参加者間でも特別な差は見られない。

項目	記述数	比較対象	
		徳島大学	高知大学
テーマに関する理解の促進・新しい気づき	48	21	16
具体例・実践例・操作方・ツールが知れた	19	6	10
ゲスト(教員・学生)の声が直接聞けた	17	8	5
自身の取組を振り返った・考えた	11	4	4
リラックスしてセミナーに参加できた	2	0	1
参加者の声を拾ってセミナーが進められた	1	0	1
感想・その他(設問の意図と合わない意見)	11	8	2
合計	109	47	39

テーマに関する理解の促進・新しい気づき

記述数:48(全回答者の約17%)

- ◆オンデマンドでのアクティブラーニングの**方法が理解できました**。
- ◆フィードバックの大切さが**再確認でき**、(中略)、取り入れてみたいアイデアが多くあり、とても**参考になった**。
- ◆ユニバーサルデザインの内容について詳細を**知ることができた**。
- ◆学生への授業評価や成績等の量的な分析について**学ぶことができました**。
- ◆十字モデルについて理解してなかったので、**勉強になりました**。
- ◆学生さんの講義や実習に関する問題点にしか関与してこなかったが、生活や心理的な面のサポートなどが必要となっていることが**わかった**。

 **セミナー内容の理解や新しい気づき(4段階モデルのレベル2:学習)について、約17%の参加者が成果を得ている。**

具体例・実践例・操作方・ツールが知れた ゲスト(教員・学生)の声が直接聞けた

記述数:36(全回答者の約13%)

- ◆授業で活用できる**具体的な実践例を紹介**していただけだったので、即時性のある研修内容でした。
- ◆**実際の分析方法を見せて頂き**、分かりやすかったです。
- ◆オンライン授業で学生の能動的参加を促進できるような**ツールの紹介**があり、大変参考になった。
- ◆実際に双方向講義をされている**先生方の実例を知る**ことができた点
- ◆**学生さんの生の声**や、**先生方の生の声**が聞けて、大変有意義でした。

 セミナーの特徴である「授業づくりのヒントになるティップスを紹介する」、「実践者・学生の声が届ける」ことに対する評価

自身の取組を振り返った・考えた

記述数:11(全回答者の約4%)

- ◆ 予習課題を準備する重要性をあらためて意識するようになりました。
- ◆ 受講生の反応をどのように見るかについて考えることができてよかったです。
- ◆ (中略)意識が弱かったこと、(中略)話すスピードへの意識不足だったことについて、今後の授業での改善に役立った。
- ◆ OneDriveで共同編集できるのは試してみようと思います。(一部表現修正)
- ◆ フォーカスモード、良いですね。やってみようと思います。

**今後の意識変容、行動変容(4段階モデルのレベル3:行動)
につながる可能性のある参加者が少数であるが存在する。**

本考察のまとめ

◆参加者の傾向

- セミナーを共同開発(共催)することで当該大学の参加者が増加する
- 大学でのセミナーの位置づけやFD参加の取り扱いにより参加傾向は変化する
- 約75%の参加者は、「特定のテーマに興味を持ち、その回のセミナーに参加」し、約25%の参加者は「本セミナーに興味・関心があり、複数回参加」している
- ほとんどの参加者は授業実践を行っている教員である

◆参加者アンケート

- センナーの満足度、有益度等(4段階モデルのレベル1:反応)については、90%以上の参加者から評価を得ている
- セミナー内容の理解や新しい気づき(4段階モデルのレベル2:学習)について、約17%の参加者が成果を得ている
- 今後の意識変容、行動変容(4段階モデルのレベル3:行動)につながる可能性のある参加者が少数であるが存在する

今後の研究課題及び取組

- ◆ セミナー参加者の**意識変容・行動変容はあるのか？**
(4段階モデルの「レベル3:行動」についての評価)
 - 参加回数による違いはあるか？
 - 各参加者の参加動機による違いはあるか？
 - セミナーに対する印象や受講の仕方による違いはあるか？
- ◆ 授業について考えるランチセミナー**フォローアップ調査**
 - 対象者:2022年度セミナー参加者(教職員のみ)
 - 実施方法:webアンケート
 - 調査期間:2023年11月15日~30日

参考文献

- ◆ 齋藤隆仁・吉田 博・塩川奈々美・飯尾 健(2023)「2022年度徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告」、大学教育研究ジャーナル、第20号、75-99.
- ◆ 鈴木克明(2015)『研修設計マニュアル:人材育成のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房.